

「他愛がねえ！」



斯々然々。

KAKUKAKU SHIKAJIKA

作・二神
光

○登場人物

- 羽田うさぎ (30) . . . 東京から音楽を諦めてやってきた元ミュージシャン
和倉国男 (36) . . . 和倉医院院長。両親を亡くし和倉医院の主であり長男
和倉茂吉 (35) . . . 和倉家二男。編集社に勤める。兄弟とは別に暮らしている。
和倉次郎丸 (25) . . . 和倉家三男。医大を目指す浪人生。東京に憧れを持つ。
浦島風太 (36) . . . 和倉医院の近くに構える総合病院の倅
菅原文也 (25) . . . 八百屋の倅。次郎丸の幼馴染。和倉家とは子供の頃からの付き合い
伴朔太郎 (27) . . . 和倉医院の担当弁護士
葛城保貴 (33) . . . 風太の顧問弁護士

○舞台

季節は初夏。とある田舎に存在する和倉医院の一室。部屋には書齋デスク、本棚、来客用のソファ、テーブル、黒電話が置いてある。舞台中央の奥の壁は抽象的に施し吹抜けている、その抽象的な壁の奥はこの家の廊下となっており、アクティングスペースとなっている。隅にはギターがハードケースに入った状態で置かれてある。棚には両親の写った写真立てが飾られてある。主にこの家では客間、和倉国男の書齋、住人達の娯楽室として使われており、よく集う場所となっている。

○全一幕八場

- 一場 和倉医院
二場 イップス
三場 何かにすがって生きている
四場 今宵限りか
五場 きつと未来は明るい
六場 濁流
七場 ただいま
八場 再生

一場 和倉医院

音楽と共に舞台の灯りが点く。初夏。午前中。そこに和倉国男が書齋デスクで何やら作業をしている。時折鳥の鳴き声に反応し窓に顔をやる。しばらくして羽田うさぎが新聞を片手に入ってくる。

うさぎ 国男先生おはようございます。

国男 ああ、うさぎちゃんおはよう。

うさぎ 今日もいい天気ですね。

国男 うん、暑くなりそうだね。

うさぎ そうですね、これ今朝の新聞です。

国男 ありがとうございます。そこに置いて。

うさぎ はい。

国男 どう？しつかり寝れてる？

うさぎ おかげさまで。

国男 汚い部屋でごめんね。それに狭いし。

うさぎ そんなことないです。ただでさえ住み込みで働かせてもらってるだけでありがたいのに。

国男 町には慣れた？町って程でもないけど。

うさぎ 昨日、城下の方に行ってみたんですけど風情あつてほんといいところですね。

国男 そうなのかな。でも、そう思ってくれて良かった。

うさぎ 皆優しい人達ですよ。ほんと癒されます。

国男 何言ってるの。ただの田舎者だよ。東京から来たんじゃないでしょ？

うさぎ そんな事ありませんよ。東京は息が詰まっちゃいます。

国男 そっか。

うさぎ では、準備してきます。あ。

国男 何？

うさぎ 朝食におにぎりや味噌汁と卵焼き作ったので良かったら食べてください。

国男 え？それは嬉しいな。ありがとう。

うさぎ 勝手にキッチン使っちゃいましたけど。

国男 そんなの全然いいよ。ありがとうね。

うさぎ これくらいしかできないので。

国男 十分だよ。いやあ、手作りの朝食なんて久しぶりだな。

国男

うさぎ 次郎ちゃんの分も作ったので。

国男 次郎丸のなんかいいんだよ。ぷー太郎にうさぎちゃんの朝食食べる資格なんかないんだから。

うさぎ 次郎ちゃん起こさなくていいんですか？

国男 起きなかつたからいいよ。

うさぎ そうですか？でも、予備校のテストが何とか……。

国男 いい、いい。そんなことはあいつが自分で自立してやらないとダメだって。

うさぎ 分かりました。じゃあ、私準備してきます。

うさぎ 出ていこうとする。

国男 あ、うさぎちゃん。

うさぎ はい？

国男 今日は午前中は安田さんと――

黒電話が鳴る。

うさぎ 木下さんですね

国男 そうだね。木下さんは今日採血すると思うから、それとなく準備しといて。

うさぎ はい、分かりました。

うさぎ 出ていく。電話を取る国男。

国男 はい、和倉医院です。はい……はい、私ですけど……はい、ああ、前にも言いましたけどね、それについては断りさせて頂きますんで……は

い……いえ、そういう事じゃなくてですね、前にも言いましたように私たちにとっては大切な家ですので……ええ……ええ。分かりますよね……。

茂吉が入ってくる。目が合う茂吉と国男。

国男 はい……。え？あ、はい……そうです……。

茂吉 総合病院？

相槌を打つ国男。

国男

はい……はい……そういう事ではないんですよ。勿論そんな気持ち私が私にあるならこんなボロい家「はい、どうぞ」つてしますよ。それにこんな田舎なら土地なんていっぱいあるでしょう。ましてや――

国男の電話を取る茂吉。

茂吉

お宅らねしつこいですよ。こつちに変更意思ないつて言ってるでしょう。それにこんな事電話で決められないでしょう。上の者を寄越すのが筋つてもんでしょうが。

電話を切る茂吉。

鳥の鳴き声。

つたく……。

なんだこいつら。

帰つてたのか？

つい、さつき。

連絡しろよ。

兄貴な、舐められてんだよ。

何が？

そいつらに。舐められてるんだつて。

舐められてるつてなんだよ。

もつと兄貴がガツンと言わねえからそうやって付け込まれていくんだよ。

お前は何も知らないだろ。

電話だけじゃあしやあと良く言えるもんだよな。楽勝だと思われてるんだよ。

はいはい。お前はいいよ。どうせここにいないし。お前が言うようにやってたらな、どんな噂立てられるかも分からないだろ。それこそこいつらの思う壺じゃねえか。

何それ？

いいか、医者つていうのはな、イメージ商売でもあるわけよ。それをな、変な噂立てられて患者が減つてみる。困るのは俺なんだから。

でも、現に患者減つてんだろ。

は？

次郎丸が言つてたよ。全く患者来ないつて。

は、来るよ。

国男

茂吉

茂吉

茂吉

茂吉

茂吉 これもこないだ次郎丸から聞いたけど……。
国男 なんだよ？
茂吉 山根のばあさんとうとう猫持ってきたらしいな。

鳥の鳴き声。

国男 ああ、三毛猫な。
茂吉 種類はいいんだよ。
国男 拾ってケガしてたから見えてくれって。
茂吉 何してんの？いつから動物病院になったんだよ。
国男 動物だつて大切な命だ。
茂吉 論点そこじゃないから。
国男 うるさいな。患者来ないつて言ってるけどな、こない方が患者にとつてはいいんだから。この町の人が健康つてことだろ。
茂吉 ものは言いようだな。
国男 は？
茂吉 なわけないから。総合病院に根こそぎ持っていかれてるんだつて。
国男 そんなことないつて。
茂吉 てか、あそこの倅、兄貴と同級生じゃなかった？
国男 あ、風太？
茂吉 風太だつて？今、そいつが色々取り締まってるんだろ？
国男 そうなのか。
茂吉 そういうことくらい知つとけよ。
国男 でも、風太関西の方向つてるつて聞いたけどな。
茂吉 継いだんだよ。だからあんな大規模にリニューアルしてんだろ。こんな狭いクソ田舎で敵のそんなことも把握してないんじや先が思いやられるよ。
国男 でも、患者だつて後に気付くつて。今はそういう新しいもん見たさに離れてるけどさ、やっぱり結局は寄り添ってくれる医療の和倉医院がいつて。
茂吉 どういうこと？
国男 やっぱり行きつけの和倉医院に戻ろうつてなるんだつて。
茂吉 かかりつけな。居酒屋じゃねえんだから。大丈夫かよほんとにうるさいよもう。

鳥の鳴き声。

茂吉 俺は心配してんだって。
国男 余計なお世話だよ。
茂吉 兄貴は樂觀的すぎるから、本当に大丈夫かなって。
国男 だから余計なお世話だよ。

鳥の鳴き声。

国男 好き放題言いやがって。分かってるって。俺だって色々考えてるよ。
茂吉 ……それならいいけど。
国男 心配すんな。
茂吉 ……言い過ぎたよ。

次郎丸が入ってくる。

次郎丸 ちよつと兄貴起こしてって言ったじゃん。
国男 知るか、お前が起きなかつたんだろ。
次郎丸 あ、茂吉兄帰ってきてたんだ。
茂吉 ああ、さつき。
国男 お前今日テストなんだろう？
次郎丸 だから起こしてって言ったんじゃない。
茂吉 間に合うのか？
次郎丸 大丈夫。余裕だよ。
茂吉 お前もドラドラ毎日過ごすなよ。バイトの一つくらいやれよ。あんま兄貴に迷惑かけんな。
国男 うるさいな、バイトくらいやつてるって。
次郎丸 週1, 2回だろ。
国男 仕方ないだろ、勉強で忙しいんだから。
国男 やかましい、浪人の分際で口答えするな。
茂吉 バイトは何やつてんだ？
次郎丸 焼肉屋。ホドヤんところ。
茂吉 ああ、ホドヤんところ。

次郎丸 うん、食いに来てよ。ホドやんも喜ぶよ。

茂吉 おう、じゃあこの休み中に顔出すよ。

国男 次郎丸、うさぎちゃんが朝食作ってくれたみたいだから食べて行けよ。

次郎丸 え？そうなの？食べる食べる。茂吉兄暫くいるの？

茂吉 ああ、一週間程。

次郎丸 そんなに休み取れるの？え？仕事変わったの？

茂吉 変わらず編集社だよ。

次郎丸 クビにでもなったかと思ったよ。

茂吉 そんなへましないよ。纏まった休みが取れただけだ。

国男 お前今日ホドやんどこか？

次郎丸 うん。

国男 じゃあ晩飯いらねえな。うさぎちゃんに言っとけよ。

次郎丸 わかつてるって。じゃあ茂吉兄また。

茂吉 お、おう。

次郎丸出ていく

茂吉 なあ、さつきからうさぎちゃんって誰？

廊下にうさぎと次郎丸出くわす。

うさぎ あ、次郎ちゃんおはよう。

次郎丸 おはよう。朝食ありがとう。頂きます。

うさぎ 大丈夫？間に合う？

次郎丸 兄貴のせいで危なかつたけどなんとか。

国男 なんで俺のせいだよ。

次郎丸 あ、今日バイトだから晩御飯大丈夫！

うさぎ 分かった。頑張つてね。

次郎丸 うん。ありがとう。

出ていく次郎丸。うさぎ廊下から入ってくる。

うさぎ 国男先生、木下さんが――

茂吉 あ、ど、どうも

うさぎ ど、どうも。

国男 羽田うさぎちゃん。あ、うさぎちゃんこいつ弟の茂吉。うさぎちゃんには2週間程前からうちで住み込みで働いてもらってるの。

茂吉 え？ そうなの？

うさぎ はじめまして羽田うさぎです。

茂吉 はじめまして、次男の茂吉です。汚い家ですいません。

うさぎ いえ、そんな事ありませんよ。

茂吉 そんな、気遣っていただいて。

うさぎ 家、本当に快適に住まわせて頂いています。

茂吉 ハハ、そうですか。それは良かった。ハハ・・・いいですね。

うさぎ はい？

茂吉 お名前。

うさぎ え？ あ、ありがとうございます。

茂吉 可愛い名前ですよ。

うさぎ あ、ありがとうございます。

茂吉 ・・・・笑顔もいいですね？

うさぎ あ、ありが――

国男 困ってんじゃないか。あ、それで木下さんがどうしたの？

うさぎ あ、さつきいらして、これから畑に寄ってから来るといふ事なので時間ずらしてほしいとのこと。

国男 了解。じゃあ、それくらいの時間になったらそれとなく準備しておいて。

うさぎ 分かりました。

茂吉 頑張ってください。

うさぎ はい、ありがとうございます。あの、茂吉さん。

茂吉 え、あ、はい、なんでしょう？

うさぎ 朝食を用意した――

茂吉 頂きます。ありがとうございます。

うさぎ ……。じゃあ、私戻ります。

出ていくうさぎ。

鳥の鳴き声。

茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国
吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男

ナイチンゲールかよ……朝食って……
なんだ朝飯食ってなかったのか。
食ったよ。カツ丼と蕎麦。

……

天使だ……。

天使か。まあ、野郎だけの家だから新鮮だよな……。

うん……

なあ。

何？

天使って性別ないの知ってる？

は？なんの話？

天使に性別はないって話。知ってる？

知らない。

紐解く？

解かない。

鳥の鳴き声

茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国茂国
吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男吉男

でも、なんであんな子がこんなところで？

こんなところってなんだ。

あんな垢ぬけた子、この町ひつくりかえしてもいないよ。

やっぱそう思う？

そりやそうでしょ。

東京から来たって。

東京？へえ、なら納得だね。東京で看護師してたの？

ううん、違う？

え？なにしてたの？

なんか、東京で音楽してたらしいよ。

音楽？

うん、でもやめたんだって。

なんで？

知らない。

茂吉　それでこの町にきたの？
うん、そう。

茂吉　は？なんでこの町？
知らないって。

茂吉　でも、看護士の免許は？

茂吉　ああ、それは学生時代に取ってたんだって。

茂吉　成程。音楽ってどんな音楽やってんの？

茂吉　詳しくは聞いてないけどシンガーソングライターって言ってたよ。

茂吉　じゃあ、作って歌うんだ。

茂吉　じゃないの。でもさ……。

茂吉　何？

茂吉　音楽の事話すと少し拒否してる感じがしてさ……。

茂吉　どういう事？

茂吉　分かんないけど……東京で音楽をそれなりに活動してきたのに、辞めてわざわざこんな田舎に来たって事は、それなりに事情があるのは間違い

茂吉　ないと思うんだけどさ……。

茂吉　何？

茂吉　何故か音楽の事話すと……何て言うんだろ……心がない感じっていうのかな……。

茂吉　何それ？

茂吉　うまく言えないんだけど、ほら、俺もたまに遊びでギター弾いたりするけどさ、良かれと思って何気なく、俺ギター下手クソだから教えてよっ

茂吉　て聞いても、いや、私は……みたいな。……濁すっていうのかな……。

茂吉　へえ。

茂吉　だからあんまり触れてほしくないのかなって。まあ、世の中には色々な人がいるよ。大なり小なり何かしら人は背負って生きてんだから、あま

茂吉　り不思議なことじゃないって。現にここだって予期せぬことに巻き込まれてんだから。

茂吉　そのこと言ったのか？

茂吉　うざぎちゃんに？

茂吉　ああ。

茂吉　それとなくね。

茂吉　それとなくか……。

茂吉　私は気にしないので、そちらが良ければって……。

鳥の鳴く声。

国男　なあ、茂吉。
何？

茂吉　ここも30年か……。次郎丸生まれてなかったもんな。

茂吉　ああ。

茂吉　すっかり変わったな……。

国男　ああ……。でも、変わったのは此処じゃなくて、この町だったり俺達だよ……そうだな。

国男　写真立ての方にいく。

国男　あんた達はずっと歳変わらななんだもんな……。俺達あつという間に歳追い抜くよ。

鳥の鳴き声。

国男　どうだお前は最近。編集社って仕事が良く分かんが今は忙しくないのか？

茂吉　波があるんだよ。今は落ち着いてるよ。次郎丸は？まだ諦めてないのか？

茂吉　今年こそは絶対受かる！って言ってるよ。

茂吉　いづれはここで？

茂吉　あんなやかましいのに居られても困るよ。東京がいいんだってよ。

茂吉　東京？まだ行きたいなんて言ってるんだ。

茂吉　言ってるよ。医者なんてならなくてもいいから、とつと東京でもなんでも言ってくれよ。毎日うるさくてかなわん。

茂吉　だな。でも、医者になるの諦めてないのはやつぱり兄貴の背中見てんだろな。

茂吉　……どうだろうな。今日はどうすんだ？

茂吉　今日は色々に挨拶してくるよ。

茂吉　そうか。さてと準備しようかな。うさぎちゃんの朝飯食べにいく。

茂吉　ああ。なあ、兄貴。

茂吉　ん？

茂吉　次の町内の会合って……

茂吉　ああ。5日後だ。

茂吉　俺もいくよ。

茂吉　そうか

国男、白衣を取り出て行こうとする

国男
茂吉

……ありがとな
……どうつてことねえよ

鳥の鳴き声。

国男出ていく。追うように茂吉も出ていく。

音楽 F・I

灯り変わっていく

続く

